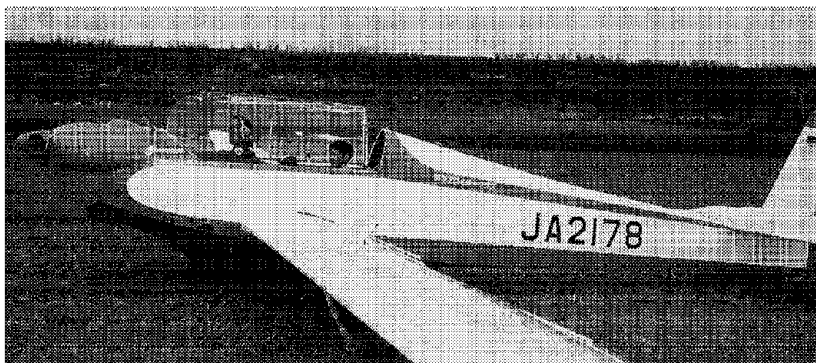


散歩しないか 角田の空を

6・7日に体験搭乗会



阿武隈川河川敷で行われたグライダーのデモ飛行。200人近い市民が空の散歩を楽しんだ＝5月、角田市佐倉

角田市の阿武隈川河川敷に国内屈指のグライダー発着場をつくること、角田市商工会青年部（佐藤忠義部長）が熱心に取り組んでいる。「空のヨット」とも称されるグライダーの魅力が市民に知ってもらうため、六、七の両日、県航空協会の協力で「親子グライダー教室」を開く。世界の飛行機乗りが集い、上昇気流に乗ったグライダーが次々と弧を描く「風のまち」。商工会青年部はそんな地域の未来図を描いている。

親子グライダー教室はセミナーと体験搭乗会が目玉。セミナーは六日午後六時から、角田市の阿武隈急行角田駅オーケストラで開かれる。東北大流体力学研究所の小浜泰昭教授を講師

グライダーの 発着場開設へ 魅力アピール

商工会青年部

として招き、グライダーが飛行する仕組みを解説してもらう。

体験搭乗会は、角田市佐倉の阿武隈川河川敷で六、七の両日開催。県航空協会のメンバーが操縦かんをにぎる機体に乗って、角田上空を旋回する。

阿武隈川河川敷をグライダー発着基地として整備する構想は県航空協会が打ち出したものだが、市商工会青年部は「地域おこし」として位置づけ、活発な取り組みを展開してきた。第一弾として五月、デモンストレーション飛行を行ったほか、九月には、行政を含めた地域ぐるみでグライダー発着場を運営している北海道滝川市の担当者をして講演を聞いた。河川敷を管理する建設省も「バックアップ」を要。問い合わせは市商工会0224(62)1242へ。